

大阪町家・長屋のサイトスペシフィックな利活用に関する研究 国際交流の場としての活用に着目して

【代表者】

小池志保子 大阪市立大学生活科学研究科 准教授

【共同研究者】

小伊藤亜希子 大阪市立大学 生活科学研究科 教授

福田美穂 大阪市立大学 生活科学研究科 准教授

碓田智子 大阪教育大学 教育学部 教授

西川章江 大阪教育大学 教育学部 准教授

【研究概要（申請書より抜粋）】

本研究では、都市居住の遺構である大阪の町家・長屋の特性を活かした空間体験に着目し、町家・長屋の持続的な保存・活用につながるサイトスペシフィックな町家活用に着目する。大阪町家・長屋の住空間を改修して使うのではなく、住まいとしての特性を残し、それを活かした使い方に挑戦している事例を取り上げ、そのサイトスペシフィックな利活用について調査・分析する研究を進める。

昨年の研究成果を発展させ、今年度は特に日本の伝統的な住空間である町家・長屋を留学生や海外からのビジターとの国際交流の場として活用する事例に着目し、伝統的空間の受け入れられ方、教育効果の高い体験について検証しつつ、調査事例の分析を進める。調査の場としては、大阪市立大学都市研究プラザ・豊崎プラザ（国の登録有形文化財に登録された大阪の住文化を伝える貴重な主屋・長屋群）を中心に、大阪長屋を保全・活用するネットワークを形成するオープンナガヤ大阪に参加する大阪近代長屋を住宅として活用する事例も取り上げる。

研究のとりまとめ、および、空間構成の分析を小池が、空間の活用を通じた教育の効果について碓田が、特に食に特化した教育効果について西川が、住まいを使うことの効果について小伊藤が、国際的な活用の効果について福田が検証し、町家の住空間を持続的、かつ、サイトスペシフィックに活用するための空間セッティングの方法と可能性を探る。